

## 大阪府立信太高等学校 令和4年度学校教育自己診断報告

信太高校 首席

### ＜ 目 的 ＞

- ① 信太高校の教育活動全般についての充実発展を図るため、教育の送り手と受け手の双方からの評価を点検・分析し、教育上の課題を明らかにすることで、今後の生徒への指導に役立つ資料とする。
- ② 毎年一定の時期に実施することで経年変化を把握し、生徒の指導に役立つ資料とする。
- ③ 「学校評価」について、教育委員会への提出書類の基礎資料とする。

### ＜ 実施時期 ＞

令和4年11月28日～12月23日

### ＜ 実施対象 ＞

生徒、保護者、教職員

### ＜ 情報開示 ＞

生徒、保護者、教職員、学校運営協議会、学校ウェブサイト 等を開示

### ＜ 回答数 ＞

	回答数	全体数	回答率（前年度比）
生徒	666名	706名	94.3% (-4.9)
保護者	247名	706名	35.0% (+23.9)
教職員	53名	53名	100% (±0)

※令和3年度は保護者の回答方法をWEB上のアンケートシステムを用いたが、  
令和4年度は、令和2年度までと同様、マークシートによりアンケートを回収した。

### ＜ 評価結果と分析の見方 ＞

設問の大半は[A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない]の四択式です。生徒への「信太高校体験入学、説明会への参加」「部活動への参加」「所属コース」に関する設問の回答は最後の資料をご覧ください。

報告書では各設問を、

1. 学校運営・環境
2. 教育相談・人権
3. 学校生活
4. 学習・体験
5. 進路指導・生活指導
6. 特別活動・その他

に分類し、その中で特に注目すべき点について、評価・分析・重点目標を記しています。また使用している数値は『肯定的評価＝A+Bの%』です。

資料では設問毎にA B C Dの割合（%）を示していますが、未回答、小数第2位以下の四捨五入等により、合計が100%にならない項目があります。

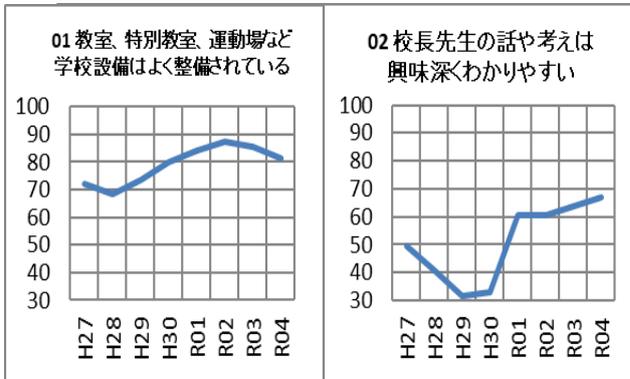
1. 学校運営・環境

<評価>

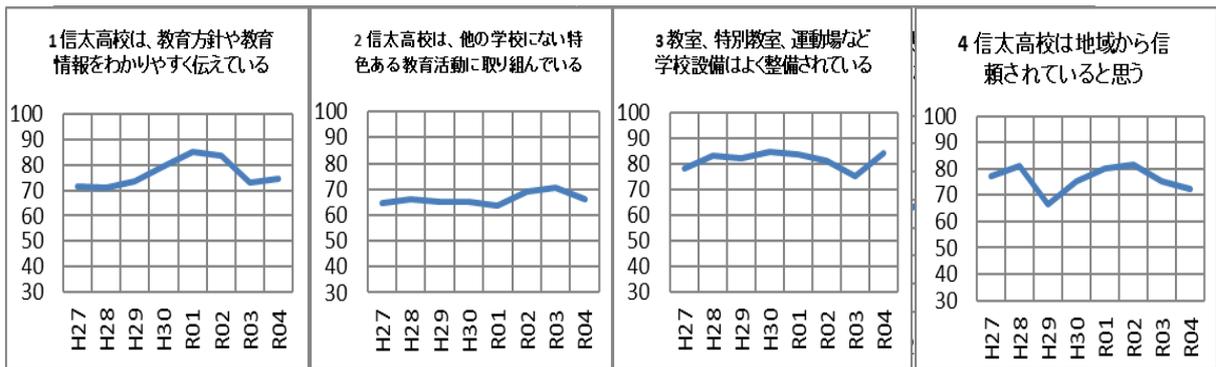
生徒・中学生のときに、信太高校の体験入学や学校説明会に何回参加しましたか

現1年生 (1回 27.7%・2回 7.6%・3回以上 1.8%) 計 37.1%

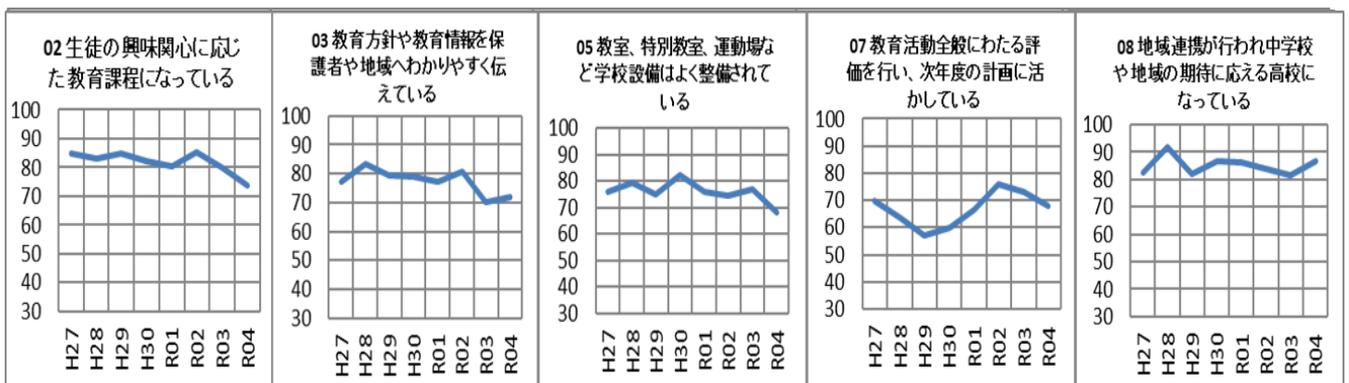
- ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 81.2%
- ・校長先生の話や考えは興味深くわかりやすい 66.8%



- 保護者・信太高校は、教育方針や教育情報をわかりやすく伝えている 74.3%
- ・信太高校は、他校にない特色ある教育活動に取り組んでいる 66.3%
  - ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 84.4%
  - ・信太高校は地域から信頼されていると思う 72.1%



- 教職員・生徒の興味関心に応じた教育課程になっている 73.6%
- ・教育方針や教育情報を保護者や地域へわかりやすく伝えている 71.7%
  - ・教室、特別教室、運動場など学校設備はよく整備されている 67.9%
  - ・教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている 67.9%
  - ・地域連携が行われ中学校や地域の期待に応える高校になっている 86.8%



#### <分析>

◇学校設備について整備できていると捉えているのは、生徒・保護者ともに 80%を超えているが、教員では 70%に満たない。学習指導要領などで求められる教育活動の形の変化に対して、教員側が設備の面で不備を覚えているのだろう。教員への細かなリサーチが必要である。

◇教育活動の特色（保護者）や興味に応じた教育課程（教員）については、昨年度と比べて低下している。スポーツコースや共生推進教室は根付いてきた。それが定番として認識されるようになり、もはや特色とは受け取られなくなってきた。更に発展させるために、スポーツコースと共生推進教室を核に、全体としてシナジー（相乗効果）を得られる学校としての方向性を定め、そのデザインを行うべきだろう。

◇信太高校の地域からの信頼や期待についての項目について、保護者は低下、教員は上昇している。学校の取組として地域への活動は行っているが、その内容がニーズと合致していない、または地域への活動を上手に伝えられていないなどの理由が考えられる。アフターコロナに地域連携事業の再開に注力する。

#### <重点目標>

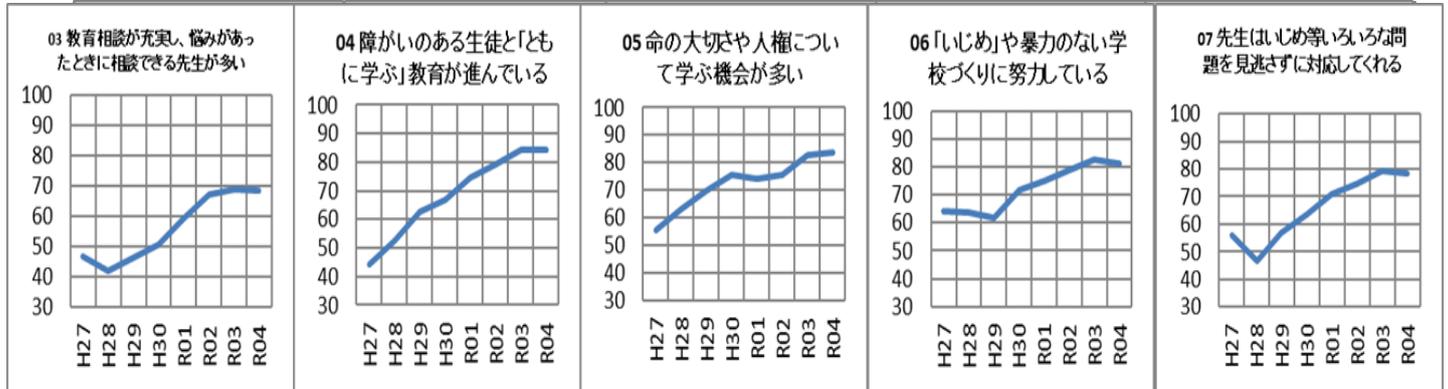
似た内容の項目であるのに、生徒・保護者・教員の間での認識のずれが少なからず存在する。

まずは今後の学校の方向性などをつけていくために、正しいリサーチと分析に基づいたプランを立てること、そして、それを周知していくことを大切にしなければならない。そうすることで、学校全体として、強い推進力で改善・運営を行えると思われる。

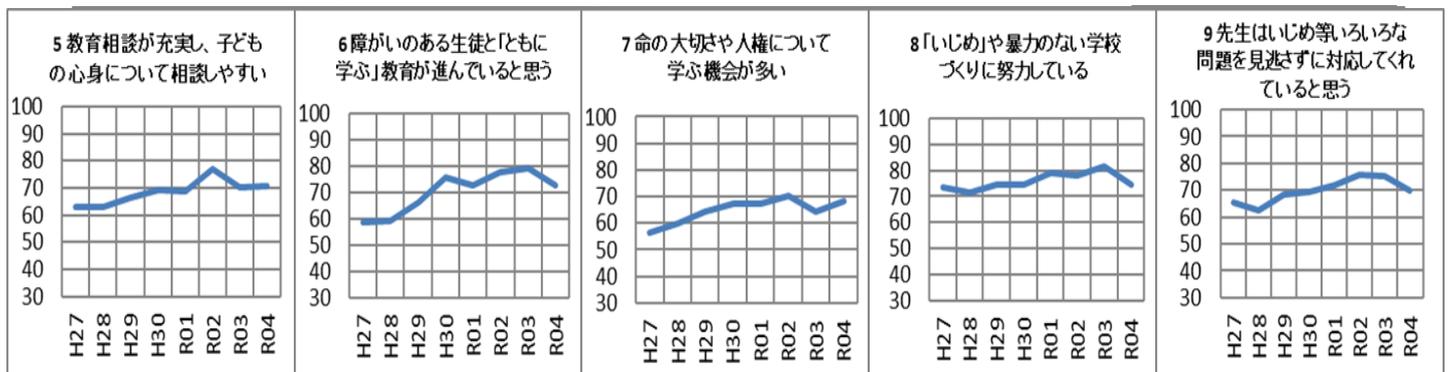
## 2. 教育相談・人権

<評価>

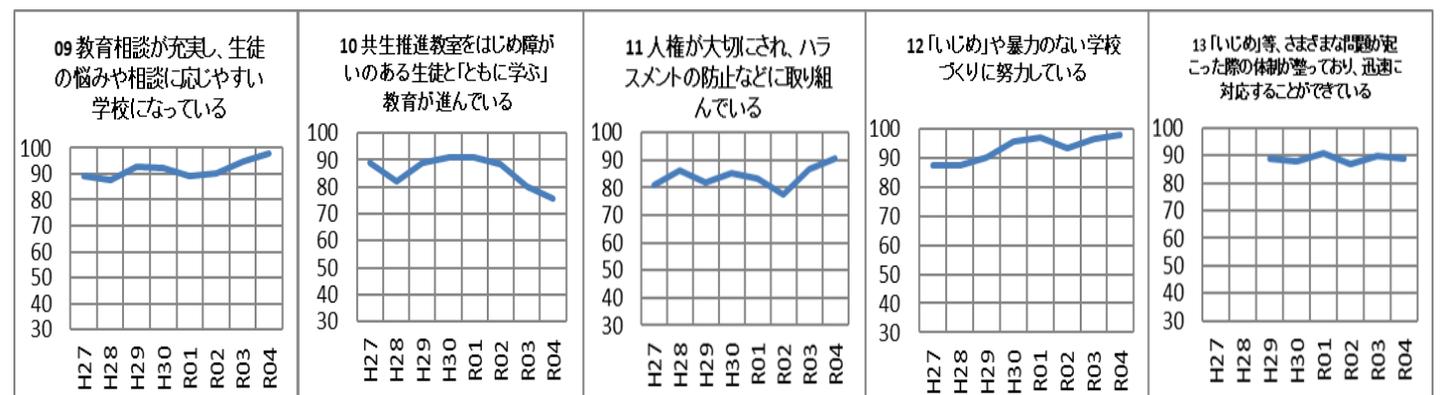
- 生徒・教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い 68.8%
- ・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる 84.5%
  - ・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い 83.9%
  - ・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している 80.9%
  - ・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる 78.4%



- 保護者・教育相談が充実し、子どもの心身について相談しやすい 70.8%
- ・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいると思う 72.4%
  - ・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い 68.5%
  - ・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している 74.3%
  - ・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれていると思う 70.1%



- 教職員・教育相談が充実し、生徒の悩みや相談に応じやすい学校になっている 98.1%
- ・共生推進教室をはじめ障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる 75.5%
  - ・人権が大切にされ、ハラスメントの防止などに取り組んでいる 90.6%
  - ・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している 98.1%
  - ・「いじめ」等、さまざまな問題が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている 88.7%



#### <分析>

◇「教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い」（生徒）、「教育相談が充実し、子どもの心身について相談しやすい」（保護者）の項目は、平成27年度より徐々に上昇しているが、この3年間は70%前後で停滞している。本校ではスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの助言をいただきながら教育支援委員会や教員で対応する体制をとっているが、SC・SSWに繋げる最初として教員に相談しやすい環境を作っていく必要がある。

◇「障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる」の項目では、生徒は微増、保護者・教員では減少した。実際に学校で共生推進教室の生徒に出会う生徒たちはその取組が見えているが、保護者にまでは様子を伝えきれていない。また、共生推進教室ができて9年目を迎え、これからどのようにさらに改善していくかを教員としては課題に感じているのだろう。

◇「いじめや暴力のない学校づくりに努力している」「先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる」（生徒）、「先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれていると思う」（保護者）の項目では、生徒・保護者ともに昨年度より減少している。いじめ防止対策委員会を中心に、毎年いじめアンケートを実施し、教員で聞き取りを行い対応する体制をとっているが、SNS上での暴言など、学校空間以外で顕在化しにくいものをどのようにキャッチしていくかが課題となろう。

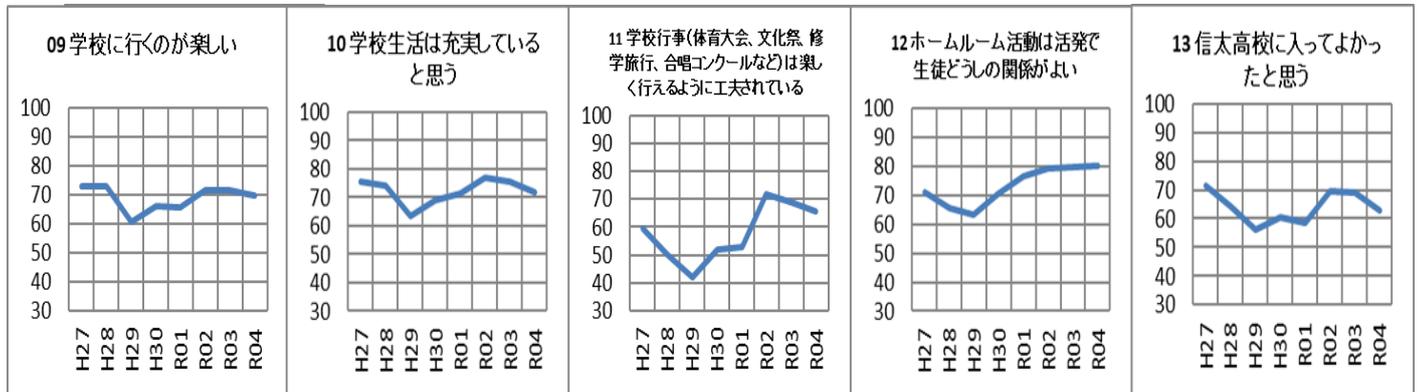
#### <重点目標>

教育支援・教育相談体制については、昨年度同様、生徒に寄り添った支援を心がけ、より一層安全・安心な学校作りに努めていることから、一定数の肯定的回答が見られるものの少しの停滞が認められる。しかし、全体的な方向性はそのまま、さらに相談しやすい雰囲気づくりなどを意識していく。

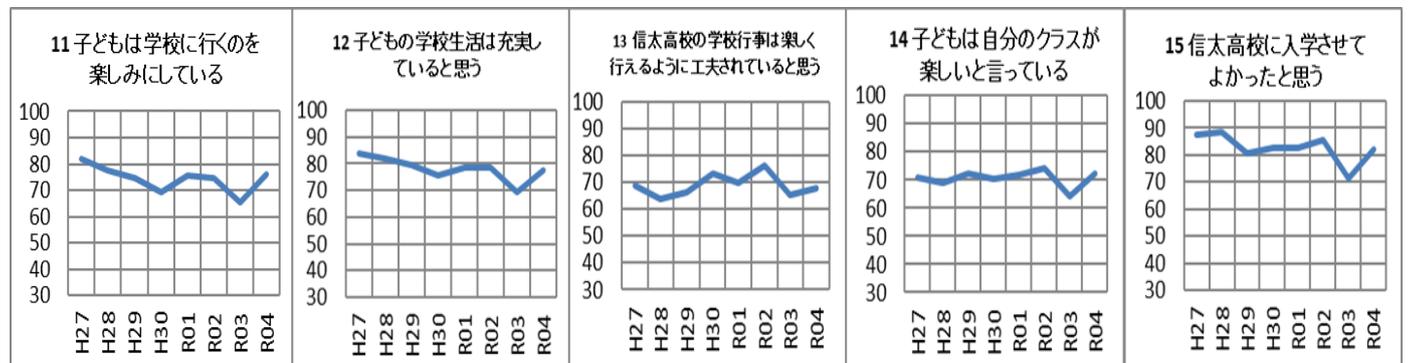
### 3. 学校生活

#### <評価>

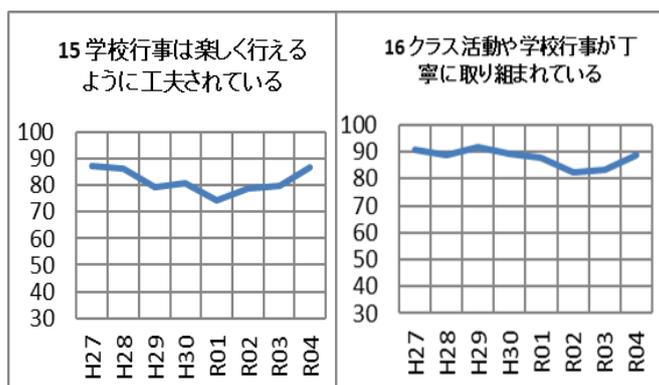
- 生徒・学校に行くのが楽しい 69.7%
- ・学校生活は充実していると思う 71.9%
- ・学校行事（体育大会、文化祭、修学旅行、合唱コンクールなど）は楽しく行えるように工夫されている 65.6%
- ・ホームルーム活動は活発で生徒どうしの関係がよい 80.1%
- ・信太高校に入ってよかったと思う 62.7%



- 保護者・子どもは学校に行くのを楽しみにしている 76.1%
- ・子どもの学校生活は充実していると思う 77.8%
- ・信太高校の学校行事は楽しく行えるように工夫されていると思う 67.7%
- ・子どもは自分のクラスが楽しいと言っている 72.1%
- ・信太高校に入学させてよかったと思う 81.9%



- 教職員・学校行事は楽しく行えるように工夫されている 86.8%
- ・クラス活動や学校行事が丁寧に取り組まれている 88.7%



<分析>

◇「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」の項目では、保護者・教員については上昇したが、生徒では低下している。また、「学校に行くのが楽しい」「学校生活は充実している」「信太高校に入学してよかった」に類する項目でも、保護者は上昇し、生徒は低下しているという状況である。保護者・教員と生徒の間での『たのしさ』の概念の共有ができていない状態となっているようである。

◇「ホームルーム活動は活発で生徒同士の関係が良い」の項目は上昇しており、ここ数年のうちで最高水準に達している。

<重点目標>

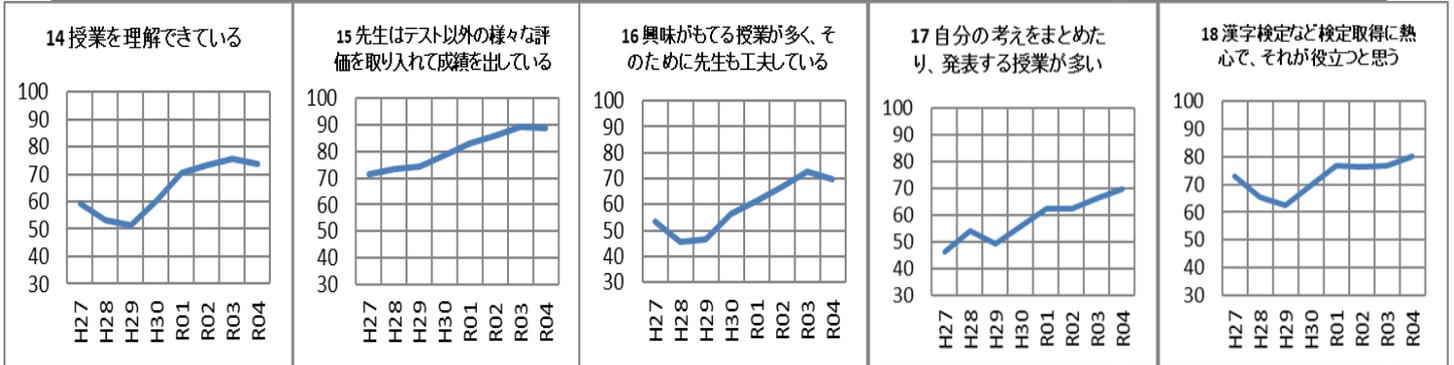
今後も変わらず、生徒が楽しく安心して学べる居場所をつくることと充実した学校生活を送ることができるようにしていくことが重要である。

課題としては、『たのしさ』の概念について乖離が起こっている部分にあらう。ホームルーム活動の評価が高いことも活用して、生徒の学校生活への前向きな取組なども促しながら、行事などの改善をしていく必要がある。

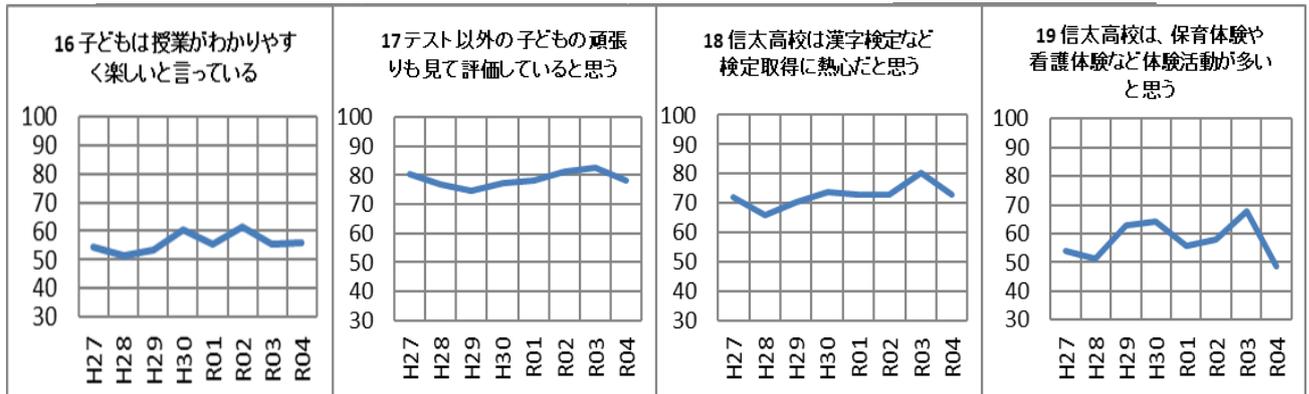
#### 4. 学習・体験

##### <評価>

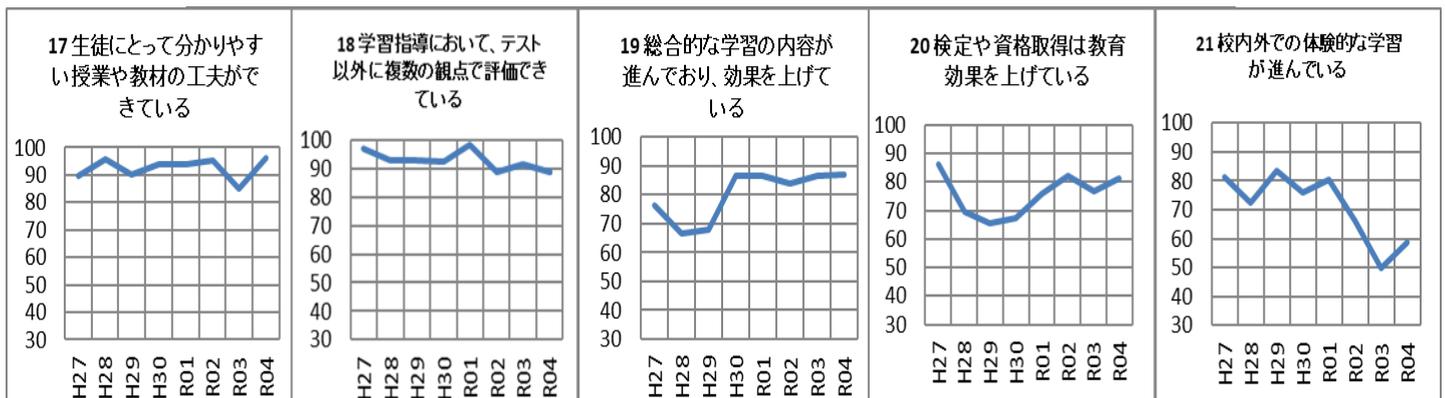
生徒・授業を理解できている	(3年 74.7% 2年 74.7% 1年 71.5%)	全学年	73.6%
・先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している			88.7%
・興味が持てる授業が多く、そのために先生も工夫している			69.7%
・自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い			69.8%
・漢字検定など検定取得に熱心で、それが役立つと思う			80.2%



保護者・子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている		56.0%
・テスト以外の子どもの頑張りも見えて評価していると思う		78.3%
・信太高校は漢字検定など検定取得に熱心だと思う		73.1%
・信太高校は保育体験や看護体験など体験活動が多いと思う		48.7%



教職員・生徒にとってわかりやすい授業や教材の工夫ができています		96.2%
・学習指導において、テスト以外に複数の観点で評価できている		88.7%
・総合的な学習の内容が進んでおり、効果を上げている		86.8%
・検定や資格取得は教育効果を上げている		81.1%
・校外での体験的な学習が進んでいる		58.5%



#### <分析>

- ◇全生徒の回答として、多くの質問に対して昨年度より肯定的な意見が減少に転じている。
- ◇「生徒にとって分かりやすい授業や教材の工夫ができている」の項目では教員では過去最高、「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」の項目は保護者の回答で増加しているが、「授業を理解できている」「先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している」「興味がもてる授業が多く、そのために先生も工夫している」の質問には、生徒の回答として、5年ぶりに減少となった。
- ◇検定試験への学校の取り組みについては教員・生徒からの肯定的な意見は増加している。授業やホームルーム、進路行事などさまざまな面からの学習への動機づけ、サポート体制が整っていることが理由の一つとして考えられる。
- ◇体験活動については生徒と保護者からの肯定的な意見が減少している。体験活動や体験学習については、コロナ禍の影響によって実施が難しかったことが影響している。生徒や保護者から体験活動が期待されていることがうかがえる。

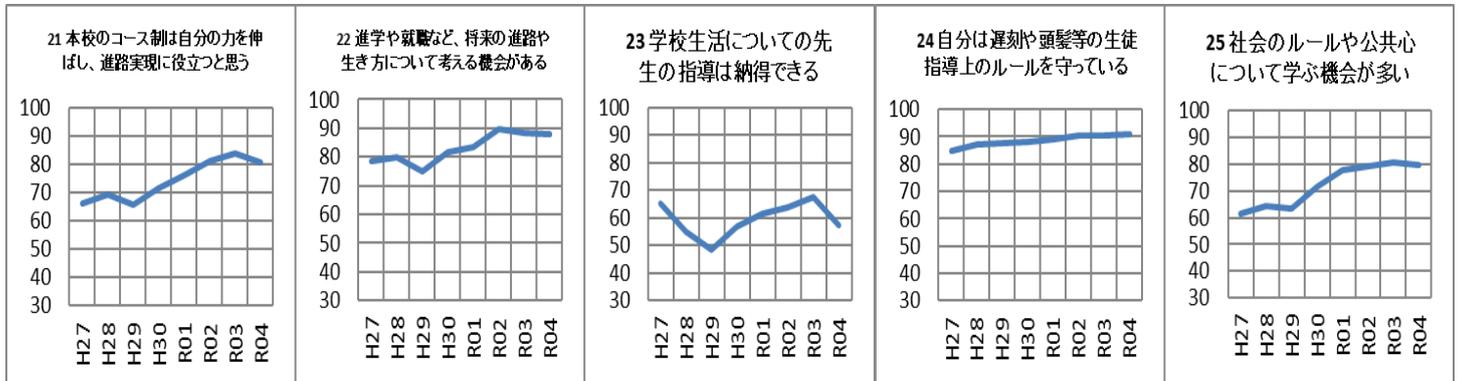
#### <重点目標>

教員が学習に対して肯定的な意見が増加しているなか、生徒にとっては肯定的な意見が減少している。観点別評価の影響で授業や評価の方法を試行錯誤している。その取り組みがより効果的になるようにこれからも検討が必要だと考えられる。

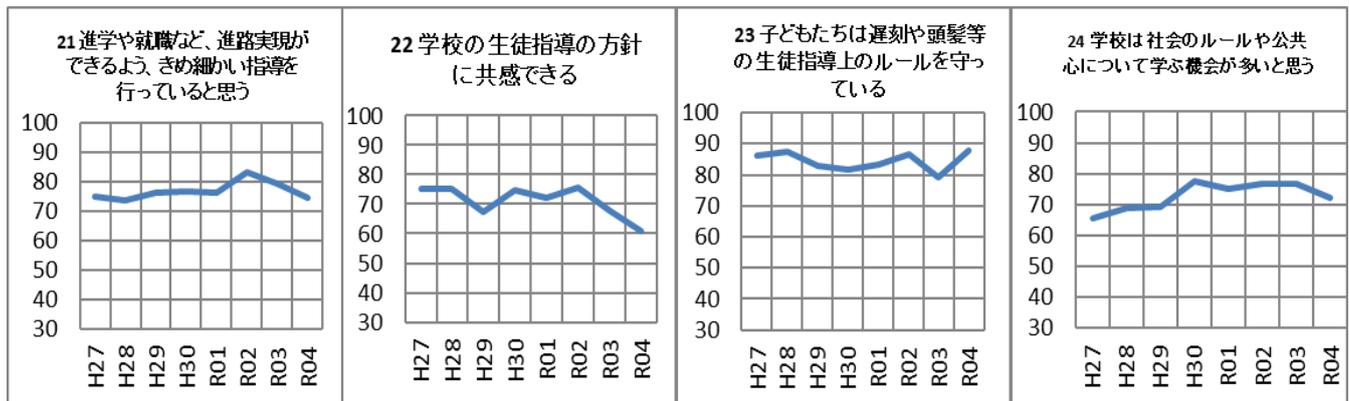
## 5. 進路指導・生活指導

<評価>

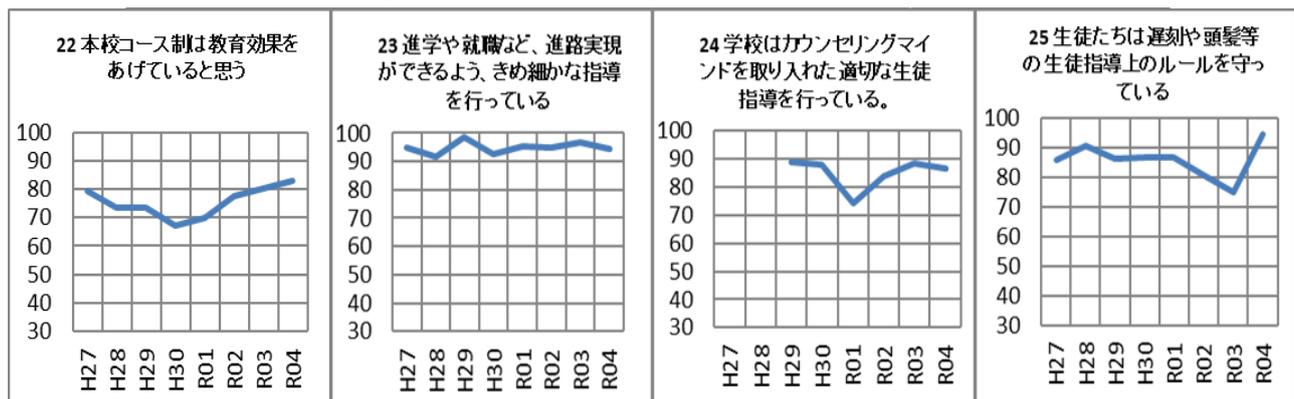
- 生徒・本校のコース制は自分の力を伸ばし、進路実現に役立つと思う 80.9%
- ・進学や就職など、将来の進路や生き方について考える機会がある 88.1%
  - ・学校生活についての先生の指導は納得できる 57.5%
  - ・自分は遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 91.0%
  - ・社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い 79.9%



- 保護者・進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かい指導を行っていると思う 74.5%
- ・学校の生徒指導の方針に共感できる 60.9%
  - ・子どもたちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 87.8%
  - ・学校は社会のルールや公共心について学ぶ機会が多いと思う 72.3%



- 教職員・本校コース制は教育効果をあげていると思う 83.0%
- ・学校は、進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かな指導を行っている 94.3%
  - ・学校はカウンセリングマインドを取り入れた適切な生徒指導を行っている 86.8%
  - ・生徒たちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 94.3%
  - ・社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い 79.3%



### <分析>

◇進路分野においては学校全体で取り組んでいることもあり、生徒・教員とも数値としては 80%を超える数値を出している。「進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かい指導を行っていると思う」(保護者)の項目ではやや減少が見られ、学校への期待の表れであると考えられる。

◇生徒指導に関する項目においては、「遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている」の項目では生徒・保護者・教員のすべてにおいて過去8年間で最も高い数値を出している。その一方で保護者の項目では「学校の生徒指導の方針に共感できる」との差が 26.9%ある。

### <重点目標>

コース制に関して、令和4年度入学生より新しいカリキュラムが適用される。1年生では 85.8%の生徒が肯定的な意見であり、学校のカリキュラムがより一層生徒の進路実現に結びつくカリキュラムとなっていることが予想される。令和4年度の入学生が進級し、実際にコースに分かれて学んだときの数値にも注目する必要がある。

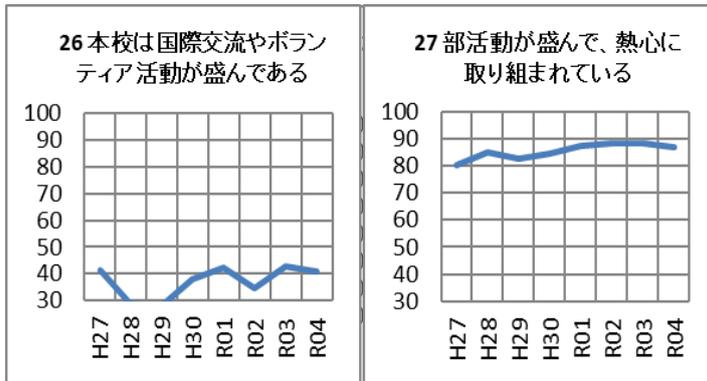
進路指導に関しては、進路行事や校内外での体験行事を充実させることで、進路について考える機会を充実させる。生徒が進路実現に向けて、どのような取り組みをしているのかが、保護者にも伝わる形で発信していくようにしたい。

生徒指導に関しては、納得していないがルールは守っているという生徒が一定数いる。ルールを守っているという項目で肯定的な意見が非常に高いため、その数値の維持を目指す。そして、生徒指導を行う際にも、しっかりと双方が納得できるように説明を行うことが必要となってくる。また「社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い」については生徒・保護者・教員すべてにおいて微減ではあるが約 80%の肯定的評価を得ている。生徒指導は社会に出た時の基礎となる部分であるという考えを教員・生徒・保護者がしっかりと共有し、この数値の更に上昇させる必要があるだろう。

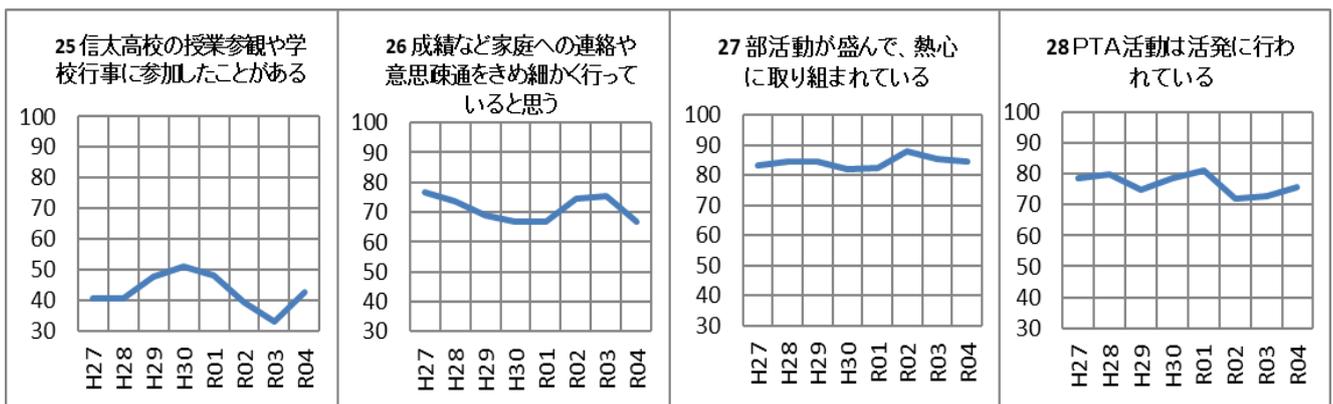
6. 特別活動・その他

<評価>

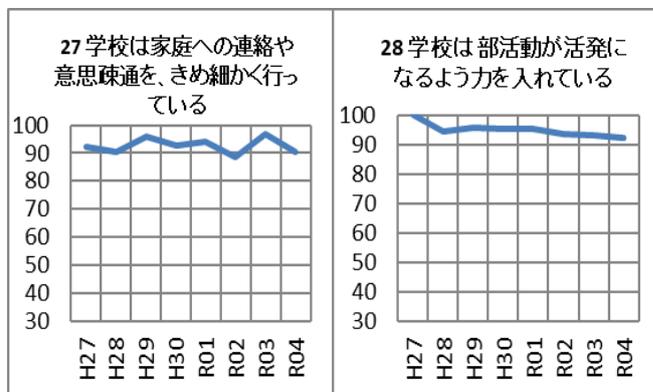
- 生徒・本校は国際交流やボランティア活動が盛んである 40.9%
- ・部活動が盛んで、熱心に取り組まれている 86.8%
- ・部活動に入っていますか (運動部 30.3% 文化部 11.3% 両方 0.6%) 全体 42.2%



- 保護者・信太高校の授業参観や学校行事に参加したことがある 42.6%
- ・成績など家庭へ連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思う 66.8%
- ・部活動が盛んで熱心に取り組まれている 84.5%
- ・PTA 活動は活発に行われている 75.7%



- 教職員・学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている 90.5%
- ・学校は部活動が活発になるよう力を入れている 92.4%



#### <分析>

- ◇部活動については、生徒・保護者・教員すべてにおいて減少した。教員については過去8年間で一番低い数値となったが、92.4%という高い数値である。
- ◇「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思う」の項目では保護者も教員も減少している。また、教員は90.5%に対して保護者は66.8%となり、両者の開きが昨年度21.4%、今年度23.7%となり、意識の差の広がりが見受けられる。
- ◇保護者の「授業参観や学校行事に参加したことがある」「PTA活動は活発に行われている」の項目は増加しており、新型コロナウイルスの影響で中止や規模が縮小されていた活動が、新型コロナウイルス拡大前に少しずつ近づいていることが理由の一つだと考えられる。

#### <重点目標>

部活動の加入率の増加を目指し、より一層部活動の活性化を図る。

国際交流やボランティア活動など、生徒が中心となって、達成感や成長を実感できる取り組みを進めていく必要がある。

保護者への情報提供については、ホームページや通信アプリなどをうまく活用するなど、情報提供方法を工夫し、保護者・教員ともに連絡を取りやすい手段を考えていく必要がある。